



"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

The service club of the YMCA THE Y'S MEN'S CLUB OF NISHINOMIYA



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB - CHARTERED MAY 17TH, 1948

主 題 (2010~2011)

- ・ **国際協会会長** 『Once More We Stand.「心新に立ち上がろう」』
藤井 寛敏 (東日本区 東京江東クラブ)
スローガン 『Build a Bridge to the Future』
「明日《あす》への橋を架けよう」
- ・ **アジア地域会長** 『Once More We Stand.「心新に立ち上がろう」』
高田 一彦 (東日本区 横浜クラブ)
- ・ **西日本区理事** 『飛翔たとう ワイズスピリットを胸に』
「Forward with Y's men's spirit in our hearts」
仁科 保雄 (京都キャピタル)
副 題 『Let's meet challenge with calmness』 「泰然自若の精神で」
- ・ **六甲部 部長** 『Show Y's care, Sow the seed of Y's』
安行 英文 (さんだクラブ) 「ワイズの心を、ワイズの種をまこう」
- ・ **西宮クラブ 会長 馬場 一郎** 『交わりを大切に、クラブライフをエンジョイしよう』
「Let's enjoy our club life through friendship!」

2010年9月

748号

64期3号

since 1948.5.17

スポンサークラブ
大阪クラブ
DBC 締結
近江八幡クラブ
広島クラブ

クラブ主役員

会 長 馬場 一郎
直前会長 浅野 純一
副 会 長 清水 彬久
書 記 廣瀬 一雄
書 記 阪根 新
会 計 岩田 健司
会 計 足立 康幸
監 事 藤原 百合子
担当主事 三島 浩司
六甲部監事 山口 政紀
部広報主査 浅野 純一
区次期交流 廣瀬 一雄

2010年9月 西日本区強調ポイント “ Menettes ” メネットが主導して楽しい例会を企画しましょう。
日ごろ出席の少ないメネットにも呼び掛け参加してもらい親睦を深めましょう。

坂本 千春 メネット事業主任 (大阪センテニアルクラブ)

2010年9月第1例会のご案内

日時: 2010年9月17日(金)午後7時~

場所: 西宮YMCA 保育園3F

ドライバー 濱 浩一メン 丸山メン

1. 開会点鐘 馬場会長
2. ワイズソング 一同
3. 聖句朗読
4. ゲスト紹介 馬場会長
5. 食前感謝
6. 会食 一同
7. ゲストスピーチ 水野雄二総主事
『神戸YMCA125周年、過去・現在・未来』
8. 誕生日のお祝い
9. Y's ニュース・お知らせ 馬場会長
10. YMCA 報告 三島主事
11. 閉会点鐘 馬場会長

今月の聖句

『主はあなたを苦しめ、飢えさせ、あなたも先祖も味わったことのないマナを食べさせられた。人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに知らせるためであった。』

申命記8章3節

清水彬久メン 選

8月 例会出席状況	在籍会員数
第1例会(8.20金)	第2例会(8.3火)
メ ン 14名	メ ン 10名
メネット 6名	メネット 0名
ゲスト・ビジター 15名	ゲスト・ビジター 0名
合計 35名 make-up 1名	合計 10名
出席率 78.9%	

ファンド・BFの累計

	8月	累計
ニコニコ ファンド	2,000p	7,927p
Brotherhood Fund	0p	5,400p
使用済み切手	0g	0g

Happy Birthday To You

お誕生日おめでとうございます

9/1 岩田健司メン 9/6 丸山美巴メネット
9/17 宮地京子特別メネット 9/21 岡田佑一郎メン

会長メッセージ

馬場 一郎 会長

8月例会を有意義に楽しく持てましたこと、感謝申し上げます。上内先生ががんばってくださって、いい準備をしてくださいました。賀川さんもはりきって参加いただきました。たくさんの方のゲストをお招きし、メネット事業のアピールもしていただき、社会福祉法人イエス団としても感謝の意を伝えることができました。

こういう例会を続けていきたいなあ、いい交わりが持てるようにいろいろ考えてきたいと思っています。ご参加いただいた皆さんありがとうございました。一番の成功は、ビールがとってもおいしかったことですね。

8月 例会 報告

ドライバー 足立 康幸メン
三島 浩司メン

8月例会は、坂本千春メネット事業主任をはじめ15名のゲストをお迎えし、本年度4月オープンされた賀川記念館にて開催しました。馬場会長の開会点鐘の後、坂本千春メネット事業主任がメネット事業として「社会福祉法人イエス団」に車を寄贈されるとの事で主旨説明があり、メネット事業について、本年度の活動に関する説明がありました。

その後、賀川督明 賀川記念館 館長からの説明のもと、賀川記念館のミュージアムを見学致しました。



グランドデザインコーナーで賀川督明氏の説明を伺う

又上内鏡子牧師よりカフェ事業(天国屋カフェ)についての経緯の説明がありました。



上内牧師がバナーの姿でご奉仕して下さいました

天国屋カフェは賀川豊彦氏が今から100年前の1910年にこの地に開いた一膳飯天国屋を現代において引き継ごうとオープンされたそうです。皆様方のコミュニティスペースとしてご利用下さいとの事です。その後、天国屋カフェで食事をしながら楽しい歓談の一時を過ごしました。



礼拝堂での例会の様子



天国屋カフェでのパーティーの様子

西宮クラブからは20名(メン14名 メット6名)ゲスト15名 計35名の参加で、会長主題にもありますとおり参加者は好い交わりがもて、エンジョイされたことと思います。

国際大会に参加して…

浅野純一メン

8月5～8日までの4日間にわたって、パシフィコ横浜で開催された国際大会に参加しました。会場は「みなと未来」の中心となる施設で、横浜で最も人気のある会議場です。メイン会場の大ホールのテラスからは横浜港の美しい景色が見わたせました。11月にはAPECが開催されるという、横浜では最高クラスの会場です。



フラッグセレモニーの最後に日本国旗が入場

大会で最も有意義に感じたのは国際交流です。開会式のフラッグセレモニーで入場する多くの国旗に、またこの極東の日本に多くの国から多数の参加いただいたことに感激しました。この国際大会に海外から参加された方々は、アフリカ6カ国、アジア10カ国、ヨーロッパ8カ国、北アメリカ2カ国、南アメリカ2カ国、そしてオーストラリアから約350名(I Y C 除く)です。なお、わが国からの参加者は約900名です。



広島・西日本区大会から折鶴5万羽が届けられた

私個人にとっては2・3日目の晩餐会が有意義なものでした。2日目はホテル側の手違いからからか食事の量がかなり少なく、不満が会場を渦巻いていたのですが、私個人としては同席したフィリピンの方と大いに交流でき、楽しい会となりました。メインの3日目の晩餐会はUAEのドバイの方と同席しました。このお二人の方々からはミニバンナーなどを頂きました。今年広島で行われた3クラブ合同の昼食会で長井メンがタイで仕事をされたときに、予告もなしに地元のワイズメンズクラブの会に参加され大歓迎されたことを話されていました。メンのお話でワイズメンズクラブは国際的な組織の良さを思いましたが、この晩餐会を通じて改めて国際的な組織にいることの喜びを感じました。



大会で少し物足りなかったのは、テーマの「環境問題への取り組み」です。環境ジャーナリストの枝廣淳子氏が基調講演をされたのですが、次の点を指摘させて頂きたいのです。

環境ジャーナリスト枝廣淳子氏

(1) GDPにかわる、人々が追求すべき幸せ度を持つべきとのお話です。GNW (Gross National Welfare) ともいべきものでしょうか、それはわかるのですが、では何を指数化すべきなのか、それを聞いたかったです。(2)江戸時代のような自然の循環システムの中での生活を話されました。しかし、文明化された現代からどのように引き戻すのでしょうか。約半世紀前の私の子供時代のことを考えると、生活ぶりは随分と快適になっています。江戸時代に戻れるのでしょうか、環境

問題は本当に難しい問題です。

それにしても、横浜のクラブの方々を中心に大会を運営された方々は大変でした。横浜のエクスカッションでは至る所で案内頂きました。このことは、ほんの一端です。横浜つづきクラブの方々は、10日も前から午前まで準備が続き、「自分の体がどこにあるのかわからないくらい」と言われてました。



火男は小野ワイズ！岡目ちゃんは誰？

最後に最近のニュースに、楽天やユニクロでは数年のうちに社内公用語が英語すると、またパナソニックが人材の採用を国際化するとありましたが、大きなショックを受けました。この国際大会でも英語が満ちあふれた大会でした。国際化は止めようにもできません。すべて英語での講演、報告、挨拶が続くなか、広島クラブの赤羽メンが日本語で話されたのは何かほっとしました。今後の日本はどうなるのでしょうか、考えさせられました。

西日本区だより-2

2011~12 交流事業主任 廣瀬一雄メン

8月4日から横浜で開催されました第69回国際大祭にメネットとともに参加いたしました。その報告は浅野直前会長と小野直前区事務局スタッフにお任せしまして、IBCの締結についてのご報告をさせていただきます。

思い起こせば、2年前のデンマーク・ヘアニ

ングでの国際大会懇親会場で西宮クラブの御隣りの芦屋クラブが南半球・オーストラリアから参加のエチューカクラブとのIBC締結の御話しをされていました。



昼食会場での芦屋・エチューカクラブIBC締結風景

その2年越しのアツイ想いが横浜で実を結びました。クラブ会長も当時は柏原さん。そして今般は桑野さん。残念ながら英語でのメッセージは聞きそびれましたがお楽しみはこれから、ということでこれからのブラザークラブの活動に期待しております。

西日本区だより-17

号外第3版

小野勅紘09-10年度西日本区理事事務局

「折りづるラン」第8便

いよいよ横浜国際大会が開会を迎えようとしている8月5日の朝、横浜中央YMCAには我が「折りづるラン」の大野勉ランナーとユース達が集まっていました。ずっと広島から共に祈り、共に走ってきた「折りづる」を携えてランナーたちは11時にスタート。軽快に走ってきたランナーたちはパシフィコ横浜の入口でSPに足止めを食らった。11月にはAPECが開催され世界のVIPが集まるので警戒を強化しているのか。大会関係者が駆けつけて説明しても、まだ疑念の眼差しは消えない。本部に連絡をして何とか了解を得てランナーたちは最後の歩みを再び始めた。幾分その情

熱が失せたようであったが、大会会場玄関で待ち受けるメンバーの熱気の歓迎でそういう杞憂は吹っ飛んでしまった。



大会の朝、横浜中央YMCAをスタートの折りづるランナーたち

950キロを走り抜いて12時30分見事なゴールであった。本当は「折りづるみこし」と共に会場に乗り込むのが本意であったと思われるが、飽くまでも「折りづるラン」は大会を盛り上げるための脇役に徹して控えめのゴール。



国際大会会場にゴールした折りづるランナーと仲間たち

それは特に西日本区と東日本区の持てる力の結集であり、見事なコラボレーションであった。「折りづるみこし」と共にきっと世界のメンバーに平和の意義を確実に訴えることが出来た。会場に配置された「折るみこし」の折りづるたちは大会終了後、世界の参加者に各国に持ち帰って頂き、更に平和の使者としての使命を果たしてくれることでしょう。

折りづるランナーの大野メンたちは、大会中も毎日4時30分にスタートしてついに東京

は日本橋まで走り抜き、東海道をも制覇しました。折りづるランナーの大野勉さん、また各地で伴走、併走、出迎えにとご支援下さった西日本区、東日本区の皆様、985キロお付き合いいただきありがとうございました。



お江戸日本橋にゴールの折りづるランナーと仲間+お巡査さん

新シリーズ

神戸YMCA創立125周年記念事業を成功させよう

125年を振り返って

(その2)

125周年記念事業実行委員長

長井 慎吾メン



125周年に際し活動の原点を振り返るため、前回より神戸YMCA125年の先達の偉業をレビューすることとしました。

第二回は初期の体育事業についてです。

神戸YMCAが本格的に体育活動をそのプロジェクトに組み込むことのできたのは、各種のインドアスポーツを可能にする体育館の完成によります。念願の会館は、1913年（大正2年）1月11日に生田区下山手通にて献堂されました。

バスケットボールがYMCAにより日本に初めて紹介された（場所は未詳）ことは周知のことですが、他にバレーボール、インドアベースボール、ハンドボール、器械体操、スプ

リングボールド、亜鈴、インディアンクラブ、柔道、剣道の紹介、その後、ダンス、卓球、バドミントン、デンマーク体操など、神戸におけるスポーツの紹介と普及に尽力しました。元総主事の古谷武雄氏によると、初期の体育事業には幾つかの働きの意味があったと述べています。その一つは、新しいスポーツの紹介・普及のため、YMCAが国際団体であるという一つの利点を活かし外国から有名な指導者が多く来神し指導したことです。二番目は、体育館によりスポーツを年間を通して、又、昼間だけでなく夜間も楽しめるようになり、勤労者などにもスポーツ愛好の層が広まりました。三番目は、女性に向けたスポーツを盛んに取り上げたことです。四番目は、体育館に付属して風呂やシャワー、ロッカーを作り、スポーツと衛生思想が結びつくといったところに特徴としての働きがありました。体育部の活動により、YMCAの役割が広く知られるに至り、キリスト教を身近に感じさせることになりました。（神戸とYMCA百年より）

YMCAが国際団体であるという一つの利点を活かし、当時の神戸に有益なインドアスポーツを普及させた点は、現在にも通じる道があると思います。日本より優れた世界の“なにか”、現在の社会に有益となるなにかをYMCAの国際ネットワークで普及させることは未来に向けて考えていく指針であると思いました。

近江八幡クラブ納涼例会

小野 勅紘メン

西日本区のお役目も無事終了し、身軽になったので、昨年に引き続き、DBCの近江八幡クラブ納涼例会に今年も参加した。8月21日（土）の夕刻、会場は昨年と同じ琵琶湖カンファレンスホールの中庭。昨年と違うのは、昨年は生憎の雨天でせっかく皆さん練習を重ねたフ

ラダンスのお披露目が座敷であったのが、今年は月影も見目麗しい晴天であったこと。昨年に引き続き2匹の河童？に今年はまだ1匹（京都銀行支店長とか）が加わって花？を添えたのは同じであった。

ホテルの中庭に設えたBBQに舌鼓を打って、いよいよフラダンスのお披露目開始・・・というところで、後ろの方で何かが倒れる鈍い音がした。急いで駆けつけるとさっきまで写真撮影にゴミ回収にと甲斐甲斐しく世話をされていた廣野メンであった。

近くにいた浅野メンが介抱に当たる一方、幸いにも医師である堀江メンが付き添って対応された。緊急連絡した救急車が中々来ない。20分位して救急車が到着して廣野メンは堀江医師の適切な対応で意識を戻して堀江医師が付き添って搬送された。

さて一時待機していたフラガール達が勢ぞろいして、華々しくフラの夕べが始まった。夜目にも鮮やかな衣装（3回お色直しをされた）に夏の一時の清涼感に酔いしれた。



最後は全員で踊り狂ってフィナーレとなった。びわこ部から彦根、草津、長浜クラブやゲストが参加。DBCの西宮クラブからは浅野、廣瀬、小野の3名が参加した。その後の知らせでは緊急搬送された廣野メンは回復して無事退院されたとの報に安堵しました。今年の夏は例年になく熱さは格別でした。

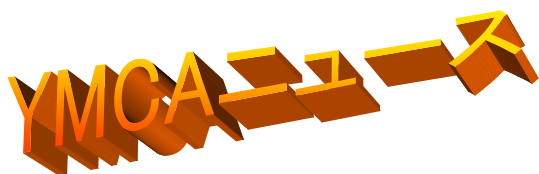
近江八幡クラブの皆様お疲れ様でした。

リーダー会だより

西宮・宝塚YMCAリーダー会 おおさわ たかし 大澤 貴志 さん

西宮YMCAではこの夏、キャンプに全力を注ぎました。様々なロケ地で、メンバーと色々なプログラムに挑戦しました。前日に用意しておいた仕掛けを翌日、他のグループよりも少し早起きして虫が集まっているか見に行ったグループや、カヌーで余島を一周したグループもありました。夏のキャンプでしかできない経験を沢山できたと思います。そしてキャンプといえばキャンプファイヤー!!みんなで一つの炎を囲みゲームをしたり歌を歌ったり。ずっと続けばいいのに...と言っていたお友達もいました。しかし、西宮YMCAの夏はお泊りのキャンプだけではありません!4日間に亘って別のロケ地でいろんな遊びをしたサマーデイキャンプや、阪神自立の家もありました。初めて出会う友達と同じ場所で同じ遊びをする、メンバーにとっては新鮮な体験だったかもしれません。海、川などで水に浸かって遊ぶ機会が多かった8月、気温が非常に高く、熱中症を心配していましたが、そんなリーダーの心配をよそに、メンバーは計り知れない程元気でバシャバシャと水と遊んでいました。中には少し高い飛び込み台の上から勢いよく川に飛び込む子どももいました!!知らない所で寝る不安な気持ちを学んだり、7年間土の中で眠っていた蝉が羽化する様子を見て生命の偉大さを知ったり、普段何気なく飲むお茶が暑い日差しの中で飲むと、素晴らしくおいしいことに気づいたり。三者三様ではありますが、この夏、子ども達は様々なことを学び、一回り大きくなって、そして真っ黒焦げになって帰ってくることができました。お帰りなさい!!

最後にワイズの皆様、今年も無事8月のキャンプを成功させることができました。ご支援ありがとうございます。またこれからもよろしくお願いします。



西宮YMCA 三島浩司メン

8月初め、横浜で行われたワイズメンズクラブ世界大会に参加する機会を得ました。一番印象深かったのは、欧米ではなく、アジアやアフリカからの参加者が多かったことです。中でもインドのメンバー数が一番多いというのは驚きでした。新しい世界の動き、波を肌で感じることができ、実り多い4日間でした。さて、この夏も神戸YMCAでは様々なプログラムが行われ、多くの子ども達やリーダー達にとって思い出の多い夏になったと思います。西宮YMCAのスタッフ、リーダーが引率、運営を担ったプログラムの様子をいくつかご紹介いたします。

8月7日から9日の2泊3日、余島海のキャンプが行われました。このキャンプは余島センターを利用したキャンプで、参加メンバー75名、引率リーダー18名と大所帯のキャンプでした。虫捕り、アーチェリー、カヌー(カヌーで余島一周に挑戦したグループもありました。)などを楽しみました。高学年はテント泊も経験することが出来ました。



8月19日から21日の2泊3日、ワイズメンの皆様にも応援をお願いしておりました家島フィッシングキャンプでは、68名のキャンパーに、18名のリーダーで釣りにチャレンジして来ました。釣果は、ふぐ、カワハギ、タイ、ベラなどを釣り上げたようです。今年新たに「サマースクール」から「サマーデイキャンプ」に名称と内容を変えたプログラムでは、8月2日から5日、8月23日から26日の2クールで述べ120名余りの子ども達と30名余りのリーダー達が参加し、淡路:岩屋での海水浴、仁川での川遊び、芦屋でのカヌー、神戸空港島での磯遊びなどを楽

しました。この他、YBB（ユースバスケットボール）の全国YMCA大会が8月19日から21日の2泊3日、三重県で行われ、西宮からは13名の子ども達が参加しました。また、8月17日から19日には、明石で中日本YMCAサッカー大会が行われ、西宮から12名のメンバーが参加しました。いずれも入賞は果たせませんでした。一人一人の子ども達にとっては大切な心の宝物となる「大会」だったようです。

西宮市との協働については、8月17日から20日に、西宮市ぜんそく児キャンプが余島で行われ、34名の子ども達がアーチェリーやキャンプファイヤー、釣り、磯遊び、ナイトハイクなどをして余島の夏を満喫していたようです。また、用海の学童保育は89名中84名が、浜脇の学童保育も139名中132名の子ども達がそれぞれ1泊2日のキャンプに参加し、虫捕りや川遊び、キャンプファイヤー等YMCAのキャンプを楽しみました。



この他、サポートクラスの子供達は能勢で1泊、余島で2泊と2本のキャンプが行われましたが、延べ55名のメンバーが参加しました。アトリエでは、六甲山YMCAでデイキャンプを行い、7ファミリー、30名余りのご家族が楽しい一日を過ごされました。今年は例年にならぬ暑さが心配でしたが、いずれのプログラムでも大きな事故もなく、元気に過ごすことが出来たことを神様に、そして、支えてくださった全ての方々に感謝したいと思います。

この秋はまた、ファミリープログラム、カーニバル、チャリティーランと大きなプログラムが続きますが、ご支援よろしくお祈りいたします。

人事異動

8月末日をもって、栗田康二さん（三宮ランチ・主事職）が退職されます。今後のご活躍をお祈りいたします。

今後の予定

1) 秋の幼稚園・保育園運動会

西宮YMCA保育園	9月18日(土)
ちとせ幼稚園	9月18日(土)
西神戸YMCA幼稚園	9月19日(日)
YMCA保育園	10月9日(土)
西神戸YMCA保育園	10月9日(土)

是非お近くの幼稚園、保育園の運動会をご覧ください。西宮YMCA保育園は森具公園にて行います。

2) 秋のバザー・カーニバル

西宮Yカーニバル	10月17日(日)
学園都市Yわいわい祭り	10月17日(日)
三宮Y国際バザー	10月24日(日)
西神戸Y幼稚園バザー	10月30日(土)
三田Y地域オープンカーニバル	10月31日(日)

六甲部各クラブがそれぞれのバザー・カーニバルでご奉仕させていただきます。是非お出かけください。

3) 第23回チャリティーゴルフ

日程：10月20日(水)
 場所：キングスロードゴルフクラブ
 (三木市吉川町前田)
 参加費：20,000円(予定)
 申込：神戸YMCA本部事務局へ
 TEL：078-241-7201

4) 西宮YMCAファミリープログラム

日時：9月23日(木・祝)10:00~16:00
 場所：甲山森林公園
 参加費：高校生以上1,500円、小中生500円
 幼児以下無料
 申込：西宮YMCAへ電話にてお申込下さい。
 TEL：0798-35-5987

今回は、炊き込みご飯とホイル焼きに挑戦します。ぜひご参加ください。

西宮YMCA保育園だより

三島浩司メン(保育園園長)
 (西宮YMCA保育園だより8月号より)

8月の主題：たのしむ

今年は例年になく雨の多い梅雨でしたが、梅雨が明けると今度は例年にならぬ暑さ。この星は大丈夫だろうか、本当に心配になってしまいます。そのような中でも、子ども

達はプールで元気一杯、水と戯れたり、セミや抜け殻、トンボなどを見つけたりして毎日の生活をたのしんでいるようです。先日のキャンプでは、すみれ・ゆり組の子ども達が、キャンプ場の自然の中で見つけてきた葉っぱや枝、木の実など様々なものを小さな板に貼り付けて素敵な思い出作りをたのしんでいました。つい最近には、いちごやぶどうが入ったパックなどを使って「造船」をたのしんでいました。子ども達はどのような環境の下でも自分達の「たのしみ」を見つける天才のようです。そして、発見した「たのしみ」を大人が思いつかないような発想でどんどん膨らませ、「大きなたのしみ」をたくさん持っています。先日、ある番組で中国の「切り絵」名人が紹介されていました。一枚の紙から作り上げられる作品のすばらしさに本当に驚きました。どんなにすばらしい切り絵でも、元の紙の大きさを超えるものにはなりません。けれども「貼り絵」であれば、紙を貼り足していけば限りなく大きくすばらしい貼り絵を作ることが出来ます。子ども達が、心から毎日の生活や遊びを「たのしむ」ことが出来るよう、「切り絵：規制」型ではなく「貼り絵：提案」型の関わりが出来るよう心がけて行きたいと思います。2010年8月26日は、マザー・テレサの100回目の誕生日です。マザーは、世界中の病や孤独など、様々な困難な状況にある人びとのために奉仕されました。マザーが残された言葉の中に「この世の最大の不幸は、貧しさや病ではありません。だから自分には必要とされていないと感じることです。」という言葉があります。ある時、イエス様のところに病に苦しむ人々が大勢集まってきました。この時、イエス様は大勢の病を一斉にいやすのではなく、「一人一人に手を置いて」いやされたのです。「大勢の病人」ではなく、「病人の一人一人」をかけがえのない存在としていやされたのです。子ども達一人一人がそれぞれのたのしみをたのしむことを願っています。

8月聖句：イエスはそのひとりひとりに
てをおいていやされた。
(詩篇92章2節)

音を重ねる日々は心を重ねる日々に46



楽団あぶあぶあ&ミュージカルチーム

LOVE 代表ひがしの ようこさん

音を重ねる日々は心を重ねる日々に -
46

今月もお休み 濱 浩一メン

ワイズニュース 馬場 一郎 会長

- 9月例会は神戸 YMCA 総主事、水野雄二さんをお迎えします。私たちワイズメンが YMCA に対して何ができるのか、何を期待されているのか、考えるひと時になればと思います。ぜひご出席ください。
- 第9回 六甲部会、9月11日、よろしくお祈いします。
- 中部部会の案内が届いております。
日時：2010年10月2日(土)
13:00~17:00
場所：金沢ニューグランドホテル
登録費：10,000円
講演：「元気ですか、中部」
京都パレスクラブ
大野 嘉宏氏
- 「STOP HIV/AIDS」5年間の報告
「エイズで学ぶ」配本
09-10年度地域奉仕・環境事業主任 遠藤通寛氏より、ワイズメンズ国際協会の UGP(国際統一事業)「STOP HIV/AIDS」事業5年間にわたる事業の活動報告が送られてきました。クラブ全員分はありませんが、9月例会でご紹介いたします。

会費納入のお願い

クラブ会計 足立 康幸
岩田 健司

西宮クラブ本年度、上期会費納付時期となっております。まだ納付されていないメンバーは下記の口座へ振込下さい。宜しくお祈い致します。

記

振込先 三井住友銀行 夙川支店
普通預金口座番号 3230220
西宮ワイズメンズクラブ 山口政紀

水の流れるまはに333

(俳句) 山野 直行(小野勲紘)

・原爆忌 折り鶴千に 間に合わず

(今年の西日本区大会は広島で開催され、平和を希求するワイズの願いとして千羽鶴を折って「折りづるみこし」に飾ることであった。ところが私は折角コンビニや100円ショップで折り紙を買いながら、私はずいぶん千羽鶴を折ることが出来ませんでした。皆に呼びかける立場の理事キャビネットがそれではなさけないと思いつつ、折り紙は今もかばんの底に眠っているのです。トホホ…)

・濱に来て 折りづるランを 出迎えり

(1月17日にスタートした折りづるランをずっと支援しえきた。土佐堀から京都を経て草津まで来たところで西日本区も追い込みの時期になって追いつけなかった。その間折りづるランナーの大野メンはずっと走り続けてとうとう箱根越えまで来たところで合流し、パンフィコ横浜で出迎えることが出来た。大野さんお疲れ様でした。やり抜く強い意思に乾杯いや完敗です。)

・大井川 誘(いざな)ふ舟は 夏帆白□

(折りづるランをサポートしている中で東山荘に駆けつける車中、大井川にうに差し掛かったところ、白い帆の舟が誘っていた。こも折りづるランナーは走り抜いていったのかなあ、と感慨がありました。もうすっかり夏の色になっていた。)

・舞阪の 泥(なず)む白洲に 夏の鳥

(折りづるランを追い掛けて舞阪を越えた。川の白洲の中に夏の鳥が羽を休めてた立たんずんでいた。夕日がまぶしく西の山に沈みかけていた。)

国のおかきも&かぼちゃラン到来!

ファンド委員長 濱 浩一メン
いよいよその時期がやって参りました。例年通り北海道十勝産じゃがいも(農林31号男爵改良型)2,200円/箱とかぼちゃ(栗かぼちゃ)2,800円/箱です。到着は10月8日(金)の夕方に我が家です。配達日は9日(土)と10日(日)ですので、ご予約下さい。このファンドプログラムは会員全員のご協力が必要で、最低、一人10箱はお願いしていくと役員会にて決定されましたので、是非ご協力を宜しくお願い致します。

宅配便の送り状は今週中(9/4迄)に西宮YMCAに届けて頂くようにしましたので、9/6以降必要枚数を取りに行き、宅配便の数量を事前に私

まで連絡し、10月1日までに記入を済ませ西宮YMCA(三島ワイズ)まで持参するようお願い致します。尚9月例会時には概数のご報告をお願い致します。

東海道五十三次行脚栗毛珍道中 第6巻

小野 勲紘メン

[糠灰奥]

[珂凄李]

《京急栏渠》 歩歩歩歩歩歩歩歩歩歩 《JR破賞》

日本橋～横浜: 27.3km, 17時間
・生麦～横浜間: 3.7km, 3時間

東海道五十三次行脚も3年目、5回目になる。(最初の1回目2007年はコース間違いで再挑戦し、実際は4年目、6回目)

今年2月に新子安まで歩いて以来、前回立ち寄れなかった「生麦事件」の現場の確認のリベンジでもあった。この日7月25日は、横浜中央YMCAで折りづるランナーの大野勉さんを出迎えるために横浜に向かう。前日は毎年恒例の「鯉の会」があり、夜行バスでの東行となった。「鯉の会」は「ラン栽培の人」でもあった西宮クラブの故堀川吉彦先輩が初めた会で、直前会長の慰労会として当時会長自らが始めた会である。今回は直前会長の浅野さん、六甲部直前部長の山口さん、六甲部直前メネット主査の濱美智子さん、そして西日本区事務局の私もその対象で外せなかった。

安価に寝て横浜まで行けると乗車したが、後の輩が椅子の背もたれに足を乗せるので、結局朝まで長く眠れず横浜駅に到着した。

大野メンの出迎えの12時迄に時間があつたので、生麦事件の確認もあり、前回終了地点の新子安から1駅戻って、生麦駅から歩くことにした。どうやら前回は東海道を間違っていたようで、本来の東海道は国道を約200m位南の寂しいところにあつた。

江戸時代の生麦村は海岸に面していて、生麦事件の現場は現在は民家で、表示板が貼り付けてあるだけであつた。

東海道を更に西に進み国道15号線と合流する地点に「生麦事件の慰霊碑」があった。明治16年になって当地、鶴見黒川荘の有力者が建立したとあった。その敷地一帯はキリンビール生麦工場で、生麦とビールとは洒落込んだものだと感心しきり。このキリンビール生麦工場が、横浜国際大会のエクスカージョンにもなっていて、何とグッドタイミングなことか。そんな生麦で感慨に耽けり、炎天下の東海道を汗拭き拭き、神奈川宿「横浜」に到着。

生麦事件

事件はアーネスト・サトウが英国から日本に着任した6日後に起こった。生麦事件とは1862(文久2)年9月14日(旧暦8月14日)に薩摩藩藩主代行の島津久光公の一行が生麦村に差し掛かったところ、英国人商人リチャードソンら4人がその列に馬で横切ろうとした。それに立腹した薩摩藩士が「無礼者」と切りつけてリチャードソンが殺害された事件である。当時の日本人も外国の様子をよく知らず、また外国人も日本の礼儀をよく知らないで起きた事件である。薩摩藩は非は相手にあるとして認めなかったが、時の幕府は英国に賠償金を支払った。薩摩藩はそれを頑として拒否したので、事件は薩英戦争に迄発展した。その後事件は長州を巻き込み長州戦争にも影響を与えた。その仲を取持ったのが今時の人の坂本龍馬で、所謂「薩長連合」がなり、それが明治維新にもつながったのであるから、歴史は何が幸いするか分からない。そんな引き金になったのが生麦事件である。



当時の生麦村



リチャードソンの遺体

東海道五十三次ワイズ栗毛行脚全行程

1. 2007.3.4(月) 日本橋 品川 7.8km
2. 2008.3.3(月) 日本橋-品川 7.8km
(前回コースを間違っって同じコースを歩く)
3. 2009.3.25(水) 品川-梅小路 7.5km
4. 2009.8.14(金) 梅小路-鶴見 5.8km
5. 2010.2.21(日) 鶴見-新子安 4.0km
6. 2010.7.25(日) 生麦-横浜 3.7km

合計 27.3km (実歩行距離36.6km)

EMC通信

EMC 委員 小野 勅紘メン

今年度は西宮クラブの EMC 事業を担当することになりました。前年度まで岩田メンがご苦労された後ですが、広報事業と併せて、地道な活動で一步一步積み重ねたいと思います。

1. 西日本区の現状

一昨年まで順調に増やしてきた西日本区の EMC 活動は、前期首 1736 名と最近では久しぶりに増員され 2000 も近いと思われたが、今期期首はどうしたことが 100 名減の 1632 名となった。特に九州部と京都部の減が目立ちます。

2. 六甲部の現状

一方、我が六甲部も一時 150 名を越えて安定していましたが、前期 149 名から 7 名減の 142 名からのスタートになっています。

3. 「ワイズ読本」と「ワイズ必携」に見る EMC

EMC には小堀理論が引き合いに出て、「奉仕」の前には、まず「親睦」ありきと言われ、親睦のないところには奉仕も芽生えないと言われています。(ワイズ読本 P.27、ワイズ必携 P.61)

本当にそうでしょうか。かつて検証された事実がワイズにはないように思われます。一昨年ワイズのテキストに「ワイズ読本」が発行され東日本区から小山正直、西日本区から井之上温代、岡本尚男、澤田賢司、守田富男、山口貴也の各メンが貴重な体験談を披露されています。皆さんの体験的資料も参考に活動したいと思います。

しかし、こういった土台となったデータは「ワイズ必携」P.133のMC-FISH BONE (元国際書記長イングヴァー・ワリン氏作成、

山川一郎氏日本語訳)ではないかと思われま
す。その基本は「会員の勧誘には動機付けが必要」

で、その前提は 例会の充実、YMCA との協働、

人柄で友を引き付けるためには、まず自分自
身の人間性を高揚させること、そして 重点目
標として青年と女性にアピールし、キリスト
教を基盤として、共に汗をかく奉仕活動を展
開することとあります。この中で の重点目標
には東日本区の小山メンが「ワイズ読本」で高
齢化社会の到来でベビーブーム年代(522年
25年生まれの60歳 63歳)の定年後の
社会参加のリニューアルに生かして欲しいとあ
ります。

4. EMC2000 推進チームの働き

EMC 事業のワイズ小委員会として、2000
推進チームが発足して5年。勢力的な活動を重
ねて来ても中々2000には届かないところ
には毎年その計画と成果に対する検証作業が積み
重ねられてないのではないかと思われる。掛
け声だけではなく、実際に裏付け(動機付け)
となる検証が必要ではないかと思われま
す。

5. 一人が一人を連れてくる EMC 活動

3年前私が会長時の8月、第2回4クラブ合
同納涼例会に合わせて EMC シンポジウムを実施
しアンケートを行いました。その結果出席者の
内、私を含めて2/3のメンバーが今まで会員を
勧誘してスポンサーになったことがなく、わず
か10%の方(5名)が5名以上をスポンサー
したことになるという事実が判明しまし
た。その結果、私は結論として「1人が1人を
連れてくれば、今の2倍になる」としてそのア
ンケート結果を EMC 事業委員会に報告しまし
た。

今年の横浜国際大会で10年の長きに亘って
尽力されたローラン・ダルマス国際書記長が退
任されて、東日本区東京センテニアルクラブの
西村隆夫メンが新国際書記長として9月に着任
されることになりました。ダルマス・ローラン
氏が退任報告の中で奇しくも「一人が一人を連

れてくる活動」が今後必要であると締めくく
っておられたのが印象に残っています。

今年からそういったことを念頭に入れて少
しでもその活動の端緒に付けることが出来れ
ば幸いであると思っております。毎月 EMC 活
動の実態を皆様に報告し、ご協力をお願いし
たいと思います。皆様のご支援をお願いいた
します。

編集後記 プリテン委員長 山本 常雄

今月号は国際大会もあり、報告事項がたくさん
ありまして目標ページ数(8ページ)を大幅に超
えてしまいました。

次月よりできるだけ目標ページに纏めたいと考
えておりますので、要領よく纏めて原稿にして
頂けますよう、ご協力を宜しくお願い致します。

プリテン原稿の締め切りは第一例会翌週の
金曜日とします。また役員会で報告数値の
再確認をしてHPに掲載します。

我がクラブも震災前には会員数37名の
大きな所帯でありましたが、震災を期に
半減し、その後多少増員はしたものの概ね
半減状況が続いております。
入会候補者は10名前後居られると思われ
ますので、体力のあるうちに具体的な策を
練り、EMC活動を展開・実践して行きたい
ものだと思います。

BF やニコニコのポイント、切手の目方を
毎月掲載致しますので、例会ごとに切手を
持ち寄るようご協力をお願い致します。